

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第16週 (4/15-4/21) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	16週	15週	14週	13週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 4/8-4/14 15週
		注意報	4/15-4/21	4/8-4/14	4/1-4/7	3/25-3/31	
			16週	15週	14週	13週	
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	4 0.22	1 0.06	3 0.17	38 0.28
	咽頭結膜熱	○	8 0.44	1 0.06	2 0.11	1 0.06	27 0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		45 2.50	55 3.06	56 3.11	42 2.33	363 2.69
	感染性胃腸炎		114 6.33	97 5.39	106 5.89	83 4.61	676 5.01
	水痘		9 0.50	8 0.44	4 0.22	12 0.67	44 0.33
	手足口病		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	4 0.03
	伝染性紅斑		19 1.06	22 1.22	12 0.67	8 0.44	113 0.84
	突発性発しん		18 1.00	12 0.67	10 0.56	13 0.72	45 0.33
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	2 0.11	2 0.11	15 0.11
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	93 3.32	34 1.21	27 0.96	24 0.86	238 1.12
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	1 0.20	1 0.20	2 0.40	16 0.46
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	2 2.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(17件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	50歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	20歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	50歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	30歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	40歳代	病原体の分離・同定等	梅毒	男性	20歳代	病原体の検出等
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定等	破傷風	男性	70歳代	臨床診断
結核	女性	20歳代	IGRA検査	百日咳	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	IGRA検査等	風しん	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	男性	50歳代	血清IgA抗体の検出	麻しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
アメーバ赤痢	男性	50歳代	内視鏡病理組織での確認	-	-	-	-

・第16週は、結核7件(56)、E型肝炎1件(4)、アメーバ赤痢1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症3件(6)、梅毒1件(11)、破傷風1件(1)、百日咳1件(34)、風しん1件(22)、麻しん1件(1)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

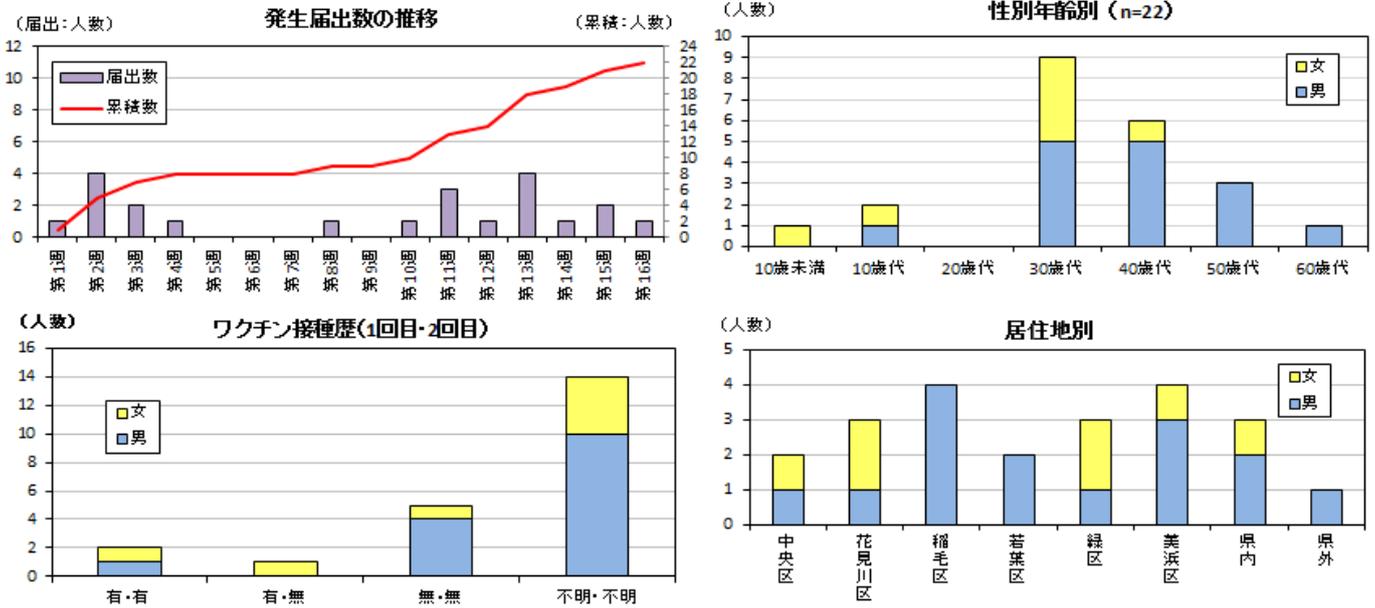
## 定点当たり報告数 第16週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.44となった。過去10年の同時期と比べると2016年と並んで最多。  
 <インフルエンザ> 第14週から連続して増加しており3.32となった。過去10年の同時期と比べると多め。

### トピック

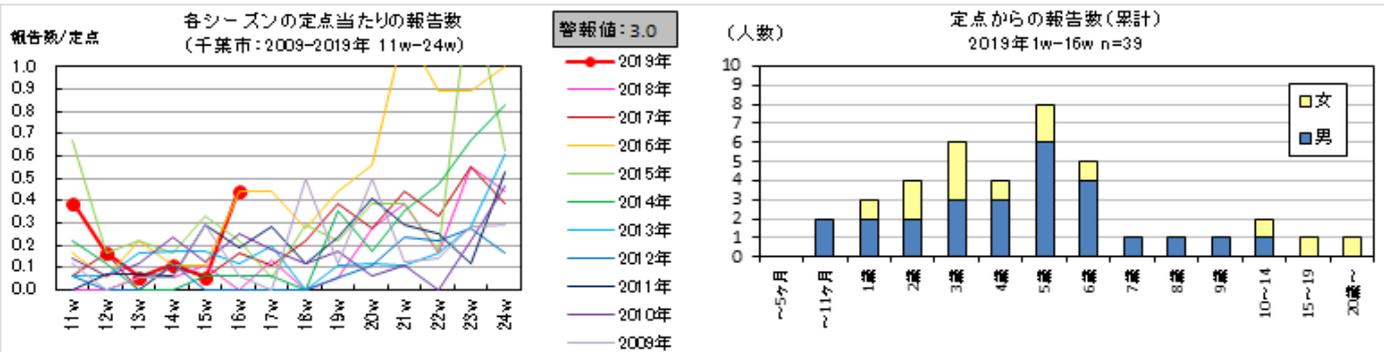
#### <風しん>

全国レベルの第15週の累積報告数は1276件となり、昨年同時期と比べると150倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県順で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第16週に1件の発生届があり、2019年の累積報告数は22件となりました。性別では男性が68.2% (15名)、女性が31.8% (7名) となっており、年齢階級別では30歳代(40.9%:9名)、40歳代(27.3%:6名)、50歳代(13.6%:3名)の順で多く、30歳代~40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の80%を上回っています。



#### <咽頭結膜熱>

全国レベルの第15週の定点当たりの報告数は0.31で、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、福井県、鹿児島県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.20で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第16週は前週より増加し0.44となり、過去10年の同時期と比べると2016年と並んで最多となっています。区別の発生状況は、若葉区(2.5/定点)で最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第16週までの累積報告数は39件で、性別では男性が66.7% (26名)、女性が33.3% (13名) となっており、年齢階級別では5歳(20.5%:8名)、3歳(15.4%:6名)、6歳(12.8%:5名)の順で多くなっています。



#### <インフルエンザ>

全国レベルの第15週の定点当たりの報告数は1.67で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、秋田県、青森県、沖縄県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.12で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市は第14週から連続して増加しており、第16週は3.32となり過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、美浜区(7.17/定点)で最多で、同区の7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第16週までの累積報告数は8514件で、性別では男性が49.7% (4228名)、女性が50.3% (4286名) となっており、年齢階級別では5歳(6.4%:546名)、4歳(6.0%:507名)、6歳(5.9%:502名)の順で多くなっています。

